

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 若松中央 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

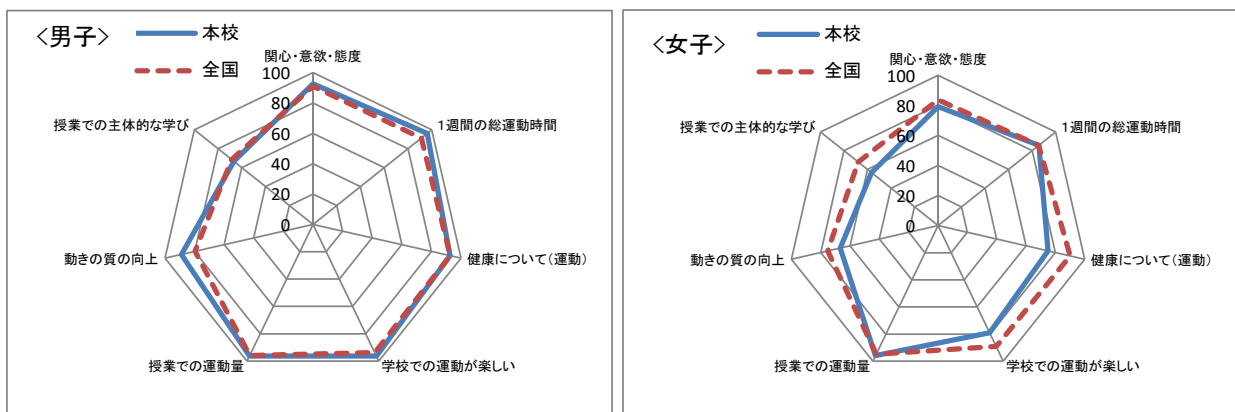
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

男子では、ほとんどの項目が全国平均と同じか、上回っている。女子は、1週間の総運動時間や授業での運動量以外は、全国平均より下回っている。コロナ禍で、ボールを使った運動等が制限されたことや、昼休みを隔日にする等の措置によることが影響していると思われる。しかし、男子については、コロナ禍でも、体育の授業やスポーツクラブ以外でも体を動かす習慣が身に付いているといえる。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

授業の準備運動では、体力向上プログラムを活用し、ジャンプアップ運動を必ず行うようにする。また、25分以上の運動量を確保する。体育科においても「めあてと振り返り」を意識した授業づくりを行うようにする。単元ごとに振り返りシートを準備し、技能面だけでなく、思考力・判断力・表現力についても見取っていくようにする。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

「なわとびチャレンジタイム」「持久走週間」を設定し、運動の大切さを継続的に指導していくようにする。全校で統一のなわとびカード、持久走記録に記入させ、担任や担任外教員等で分担して点検し、児童の意欲付けを図る。